地元産業界等との連携の実施状況（令和７年度）

◎地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業の実施状況

◆地（知）の拠点整備事業（大学ＣＯＣ事業）を通じた地域課題解決の取り組み

事業名称：「豊かな心と専門的課題解決力を持つおおいた地域創生人材の育成」

本学では、平成26年度に文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学ＣＯＣ事業）」に採択され、本学の建学の精神である「産学一致」に「人間力の育成」「社会・地域貢献」を加えた教育理念に基づき、それまで実績を上げてきた産業界・地域社会を意識した実践活動を主体とした全学での人間力教育をベースとして、地域課題である少子高齢社会を豊かに乗り切るために必要な専門的課題解決力を兼ね備える「地域創生人材」育成へ発展させ、これを地域との実践的協働活動により実現する取り組みを実施している。本事業は補助事業終了後も連携先との合意に基づき引き続き実施している。また、令和5年度からは包括連携協定を締結する佐伯市、中津市にも参画いただき取り組みを拡大している。

ⅰ．連携している地元産業界等の組織名称：

・大分県（平成26年３月に「地（知）の拠点整備事業」副申書により連携）
・大分市（平成19年８月に包括連携協定締結）
・豊後大野市（平成26年２月に包括連携協定締結）
・佐伯市（平成20年３月に包括連携協定締結）
・中津市（令和５年４月に包括連携協定締結）

ⅱ．当該連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標：

大分県の発展・飛躍の方向性の一つとして「人口減少社会を見据えた特徴ある地域づくり」を定める必要性が挙げられている。本事業では大分県全域及び県内の少子高齢化が深刻である地域（大分市佐賀関地区、豊後大野市）を対象に、これからの少子高齢社会を豊かに乗り切るために必要な地域課題の解決を対象とする。連携先と合意した本学が解決を図ろうとする地域の課題は以下の７つである。

（１）小規模・高齢化が深刻な集落におけるコミュニティの維持・活性
（２）人口減少社会を支えるための先進的な“ものづくり”
（３）自然の積極的な活用による保全と地域活性
（４）地域商店・商店街の活性による地域振興
（５）健康増進・生活支援によるコミュニティの維持
（６）ＮＰＯ法人の活動・経営支援
（７）地域ブランドの発掘による交流人口の増加・産業の活性（6次化）

＜課題解決に向けて設定した目標項目＞　※各年度の達成状況は別紙参照

【教育】地域志向科目数、地域志向カリキュラムの再編成、副専攻制度、地域志向科目を履修した学生の満足度、ジェネリックスキルの育成、県内就職率

【研究】地域との共同研究を行う教員数

【社会貢献】地域向けボランティアの活動数、地域向け公開講座数、県民の本学に対する本事業分野の地域貢献度の評価

ⅲ．ⅱの課題の解決に向けて実施する取組みの内容：

県内の少子高齢化が深刻である地域での「体験交流活動」「課題解決に必要な知識の修得」「ステークホルダーとの協働による課題解決型学修」を可能とする教育カリキュラム体系への全学的な再編と社会貢献活動との有機的な接続、それに基づく研究プロジェクト活動の推進を実現する地（知）の拠点改革を実現し、地域力の向上につなげる事業を実施している。

令和７年度は、ⅱで示した７つの課題及びその基盤となる活動として、50のプロジェクト活動を全学、各地域で展開、実施している。

本活動の取り組み方針については、令和元年度以降の取り組み方針、令和７年度の取り組み方針としてそれぞれ別紙の通り連携先と合意しており、地域へのフィードバック体制、事業の評価体制、継続的な協議の実施のサイクルを構造化している。

なお、本年度の５自治体及び地元民間オブザーバーとの合同会議である連携推進会議は令和７年７月17日に開催した。地域へ成果を発表・還元する地域報告会は、各活動単位で状況に応じて実施した。本年度の取組については、令和８年３月30日に５自治体と民間委員を含む外部評価委員会にて事業評価を受け、次年度の方針に反映した。

◎地元産業界等と連携した実践的PBLを含む授業科目等の開講の実施状況

◆科目名：「プロジェクト３（環境･地域創造演習）」（３年・通年・２単位）

ⅰ．連携している地元産業界等の組織名称：

中津市（令和５年４月に包括連携協定締結）

ⅱ．当該授業等を実施する学部・学科：　工学部 建築学科

ⅲ．当該授業等を開講する目的：

中津市本耶馬渓地区においては、地区内の中津日田道路「青の洞門・羅漢寺IC」が令和６年３月末に開通し、本耶馬渓地区が中津・耶馬渓観光の起点になった。そうした中、若い世代と青の洞門周辺観光の魅力を発見し、より高める施策に取り組むことで、来訪客の増加及び観光消費額の増額につなげる必要がある。本授業では、青の洞門周辺を基軸とした本耶馬渓の観光振興（青の洞門周辺の魅力向上、集客力アップの提案、整備）を行うことを目的とする。

ⅳ．当該授業等の具体的な内容

本学建築学科学生を中心に、令和６年度の課題解決授業において、地区内への「ジップライン設置」「アウトドアサウナの設置」「バイカーカフェイベントの実施」を中心とした提案を行い、中津市関係者（市役所や地域住民等）から高い評価を得た。

本年度はその内容を具現化、発信を通じて効果を検証することを目的として、

令和７年５月より学生23名が４チームに分かれて、地区内へのジップラインの設置、アウトドアサウナの設置、バイカーカフェイベントの実施及び広報・お披露目イベントの実施に取り組み、成果物や当地の魅力発信を行った。

ジップライン班においては、地区内のバルンバルンの森（キャンプ施設）において、中津市担当者や施設指定管理者との打合せ、現地測量、調達等を行い、指定管理者と協力してジップラインの施工、設置を行った。

アウトドア班においては、当初、やかた田舎の学校内にアウトドア施設を設置することで中津市担当者と進めていたが、今後の維持管理の都合から設置施設を変更することとなった。その後、西谷温泉キャンピングパークの指定管理者と調整が付いたことから、現地の修景池を水風呂に改修することとし、現地施工業者の協力、指導のもと、池の改修工事、整備を行った。

バイカーカフェ班においては、沿線を観光等の目的で多くが訪れるバイカーに着目し、これらの来訪者が必要とする設備や飲食メニューを考案し、地元協力者の支援のもと、青の郷イベント広場や道の駅耶馬トピアにおいて、キッチンカーを利用したバイカーカフェを複数回開設し、効果を検証した。

以上の取り組みを広報・イベント班が随時、Instagramを通じて情報発信を行った。また、成果を地域や来訪者にお披露目する目的で、西谷温泉キャンピングパークの指定管理者らと協力し、令和８年２月15日に「本耶馬渓あったかフェス」を開催することとし、広報・イベント班を中心に企画立案、準備を行った。

あったかフェスには約200名の参加を得ることができ、アウトドアサウナやバイカーカフェの体験、また各種アクティビティを体験いただき、地域の活性化に貢献することができた。

以上